

令和7年度協議会資料

南河内地域2町1村未来協議会

令和8年3月

大阪府/太子町/河南町/千早赤阪村

はじめに

- 急激な人口変動の中、府内町村が将来にわたって持続的かつ安定的に住民サービスを提供できるよう、課題分析や対応方策の検討を行うため、令和2年度に府と府内全10町村で「町村の将来のあり方に関する勉強会」を設置。
- 令和4年度からは、他の地域に先行して府と太子町、河南町、千早赤阪村が共同で、町村や地域の行政課題やその対応方策について検討し、南河内地域「将来課題の対応方策の検討」報告書を取りまとめた。
- 令和5年度から、南河内地域2町1村がより連携し、共同で行財政改革や公民連携、さらなる広域連携に取り組むとともに、選択肢の一つとして合併についても検討を深め、この地域のさらなる発展・成長をめざすため、首長が参画する南河内地域2町1村未来協議会を設置して検討を行うとともに、実施可能な対応策について実施してきた。
- 令和6年度は、単独での取組や広域連携については、引き続き検討を行い、課題を先送りせず、取り組めるところから速やかに実施していくとともに、合併に関する勉強会を設置し、踏み込んだ議論を行うこととした。市町村の将来像や進むべき方向性については、首長・議会・住民とどのような未来を実現したいのか、十分な議論を重ねていくことが重要であり、本協議会での議論を踏まえ、将来のあり方に関するオープンな議論を行っていくこととした。
- 令和7年度は、羽曳野市・大阪狭山市とともに新たに南河内基礎自治機能充実強化協議会を設置し、検討を開始する一方、本協議会では、単独での取組や広域連携について、令和6年度までの検討内容を踏まえ、引き続き検討を行い、課題を先送りせず取り組めるところから速やかに実施していくこととした。
また、本協議会の取組や協議内容にかかる広報を強化するとともに、住民アンケート等を継続して実施していくことで、将来のあり方に関するオープンな議論を引き続き行っていくこととした。

1. 各チームの検討状況一覧	・ ・ ・	P 4
2. 個別の検討内容	・ ・ ・	P 10
3. まとめ	・ ・ ・	P 51

1. 各チームの検討状況一覧

各チームの検討状況一覧

■ 合併部会（調査検討チーム・住民理解促進チーム）

項目	令和7年度の検討項目	検討・取組状況	令和8年度の方向性
調査検討	・2町1村の将来のあり方に関する検討	・羽曳野市、大阪狭山市とともに設置した南河内基礎自治機能充実強化協議会において、「地域の未来予測の作成」や「めざすべき地域の未来像づくり」、「行財政運営の課題整理」など、市町村の将来のあり方についての検討を開始した。	・引き続き、南河内基礎自治機能充実強化協議会での取組を中心に検討を継続する。
住民理解促進	・2町1村の現状や課題、将来予測等についての住民の理解促進に向けた情報発信 ・議論の双方向化の取組	・未来協議会の取組や住民アンケートの内容について、年間を通して広報紙で発信した。 ・昨年度に引き続き、2回にわたり、LINEとLoGoフォーム（電子申請）を用いた住民アンケートを実施し、南河内地域の魅力・課題や期待する未来像、自治体情報の入手手段、本協議会の取組の認知度・評価等を把握することができ、将来のあり方の検討に資する意見が得られた。自由記述では、未来協議会に対する要望に加え、合併を含む将来のあり方に関する様々な意見をいただいた。	・広報紙やSNS等を活用し、未来協議会の個別取組や協議内容を、全体像・進捗・取組の成果が分かる形で発信し、広報を強化する。 ・住民アンケートは継続実施し、住民との十分な議論のもとで市町村の将来のあり方検討を進める。

各チームの検討状況一覧

■ 広域連携部会（専門人材の確保チーム）

項目	令和7年度の検討項目	検討・取組状況	令和8年度の方向性
採用試験の見直し (試験内容の見直し ・採用試験の共同実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者の確保及び利便性の向上のため、共同実施する試験範囲の拡大を検討 ・民間サービスも活用した採用試験のPR方法について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の一次試験(集団面接)に加え、二次試験(集団討論)についても共同実施 ・民間サービス(パブリックコネクト)を活用した採用試験のPRを実施 ・行政職は予定合格者数を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者を安定的に確保するために、受験区分の設定など応募要項の変更を検討していく。 ・技術職員の確保状況が団体ごとに異なることを踏まえ、どのような採用試験のあり方が適切かを検討していく。
専門職員の有効活用 共同での研修実施	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員の知見を活用し、具体的な業務内容を広く伝える方法を検討 ・共同実施する職員向け研修の対象職種・内容を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術職員合同説明会(大阪府主催)へ共同出展するとともに、技術職員から来場者へ業務内容の説明等を実施 ・ゲートキーパー研修を共同実施(R8.2.20) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術職員の経験や知見を活かした、専門人材確保に繋がる取組を引き続き検討していく。 ・研修テーマや対象者のニーズに応じ、引き続き実施を検討していく。
採用予定者交流会の共同実施	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した採用予定者交流会が盛況であったことから、継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町村での個別の業務説明会後、河南町会場に集合し、共同の内定者交流会を開催(R7.11.26) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実施を検討していく。

各チームの検討状況一覧

■ 広域連携部会（公共施設の最適配置チーム）

項目	令和7年度の検討項目	検討・取組状況	令和8年度の方向性
給食センターの将来的な集約化などに向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・給食調理委託契約の終期の統一 ・施設や調理設備の維持に係る状況把握 ・食物アレルギー対応の状況把握 ・給食センター共同利用時の配送所要時間のシミュレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・千早赤阪村の給食調理委託契約の終期を、太子町・河南町の給食調理委託契約の終期（R11.7.31）と一致させ、契約期間の相違を解消 ・施設の維持管理費や大規模修繕費、調理設備の更新費に関する状況を比較 ・食物アレルギー対応について状況を比較 ・施設を共同利用した際の給食センターから各学校までの配送時間をシミュレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化の課題がある太子町及び千早赤阪村にて、施設や調理設備に係る経費（維持管理・更新費用等）を試算し、共同利用時の食物アレルギー対応や連携手法を含む再編等可能性調査を民間委託により実施予定 ・調査結果を基に、2町1村の給食センターのあり方について検討を進める。

各チームの検討状況一覧

■ 広域連携部会（事務の共通化・共同化チーム）

項目	令和7年度の検討項目	検討・取組状況	令和8年度の方向性
入札参加のための事業者登録事務の共同実施	・実施スケジュール ・共同実施に向けた制度設計 ・費用負担額の算出方法	・実施スケジュールについて検討し、令和9年度から順次共同化することで一致 ・共同化にあたって制度設計の検討を開始 ・共同化の際の費用負担額の算出方法について検討を開始	・国の動向を踏まえながら、引き続き制度設計の検討を進める ・共同化に向けた費用負担額の算出方法を引き続き検討する
基幹系業務システムの標準化対応を契機とした共同処理の検討	システム標準化の進捗状況に留意しつつ、2町1村で事務フローの差異が比較的小さい業務である「介護認定審査業務」をモデル事務として統合について検討	事務フローの差異を検証し、統合の検討を実施	現時点ではシステムの共同化の時期が未定のため、事務の細部まで統合することは困難との意見があったことから、2町1村間で事務フローの差異が大きい業務について、統合化に向け検討を進める（対象とする業務は現在検討中）
業務の連携強化	・チェーンソー及び刈払機の特別講習に係る研修の共同実施の可能性	・研修を共同実施することで、事務処理の負担及び予算的負担を軽減できることを確認	・研修の共同実施に向けて調整を進める ・各団体において共同実施を行うことにより、事務ノウハウの維持・共有、事務負担の軽減に資する事業や研修等がないか、対象拡大に向け、引き続き検討する

■ 広域連携部会（地域活性化チーム）

項目	令和7年度の検討項目	検討・取組状況	令和8年度の方向性
観光・定住魅力のPR、公民連携	<ul style="list-style-type: none">・大規模イベントへの共同参加による観光・定住魅力のPR・域内の観光消費拡大に向けた取組・2町1村共同での公民連携	<ul style="list-style-type: none">・「大阪の魅力を再発見！！移住・定住フェア2025」に参加し、ブースを共同出展(令和7年8月14日)・南河内地域2町1村を巡るサイクリングイベントを開催(開催期間:令和7年3月12日～11月30日)・家庭用廃食油のリサイクルによる循環型社会形成に資する取組について、共同で実施	<ul style="list-style-type: none">・2町1村の魅力のPR機会の増加、集客や関係人口の増加等に繋げるための取組について、引き続き連携して実施していく

2. 個別の検討内容

住民理解促進の取組 広報紙

令和6年度住民アンケートで把握した「未来協議会での議論や取組の内容を広く広報してほしい」との住民の声を受け、今年度は全9回にわたって広報紙に掲載。協議会の取組成果を2町1村共通の紙面でPRすることにより、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。また、今年度2回実施した住民アンケートの結果を詳しく掲載することで、住民の意識や意見の共有を図り、住民を交えた市町村の将来像にかかるオープンな議論に資するものとした。

掲載内容①(6月～10月)

実際に共同職員採用試験を受験した新採職員の声を掲載することで、取組の効果を伝えるとともに、さらなる受験者増に向けてPR



採用予定者交流会の様子

忙しいけど、先輩が優しくがんばろうって思えます！

一緒に受けた太子町、千早赤阪村の人も仲良くなりました。

仕事を覚えるのが楽しく、今はもっと色々なことが出来るようになりたい！

共同職員採用試験を受験して、入庁した職員にインタビュー！

【参考】令和8年1月号 広報紙配布部数

太子町	5,735
河南町	5,185
千早赤阪村	2,028

「南河内地域2町1村未来協議会」～将来のあり方～

南河内地域2町1村未来協議会が、令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

南河内基礎自治機能充実強化協議会を設けました！

南河内地域2町1村未来協議会が、令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

南河内地域2町1村未来協議会が第3回住民アンケートを実施しました(結果公開)

令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

未来協議会～2町1村の取組～Episode.2「地域活性化」

南河内地域2町1村未来協議会が、令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

2町1村未来協議会 Episode.3「事務の共通化・共同化」～2町1村の取組～

南河内地域2町1村未来協議会が、令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

6月号

- 協議会の取組概要と今後の方向性
- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

7月号

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置の経緯
- 人材確保の取組

8月号

- 第3回住民アンケートの結果(南河内地域に期待する未来像)
- 第4回住民アンケートの実施

9月号

- 地域活性化の取組・シンポジウム開催案内

10月号

- 事務共通化・共同化の取組(合同勉強会・研修会等)

新たに実施した公民連携事業等、2町1村の地域活性化につながる取組について紹介した。今回紹介した取組は以下のとおり。

- 移住定住フェア2025での地域の魅力PR
- 株DIIIGと連携した2町1村を巡るサイクリングイベント
- 植田油脂(株)と連携した使用済みリサイクル油の回収ボックス設置

移住・定住フェア2025で2町1村の魅力PR!

南河内地域2町1村未来協議会が、令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

株DIIIGと連携した南河内地域2町1村を巡るサイクリングイベント

南河内地域2町1村未来協議会が、令和6年度第3回住民アンケートの結果を踏まえ、協議会の取組成果を広く周知し、将来に向けて2町1村が共同で検討・議論していることを広く周知した。

協議会の取組概要と今後の方向性

- 南河内基礎自治機能充実強化協議会の設置
- 第3回住民アンケートの実施

住民理解促進の取組 広報紙

掲載内容②(11月～3月)

2町1村の個別の取組及び広域連携についてまとめた年表を掲載し、これまで各団体が行政サービスの充実に取り組んできた歴史を発信

2000年 (平成12年)	2005年 (平成17年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2026年 (令和8年)
6,968人	6,538人	6,015人	5,378人	4,909人	4,273人	

2000	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2012	2015	2016	2020	2021	2023	2024	2025	2026	
●河内長野市に第2清掃工場を建設	●富田林市と3町村で合併協議会を設置	▲南阪奈道路開通	●富田林市と3町村との合併協議会を廃止	●富田林市と3町村との合併協議会を廃止	▲平成の大合併により、堺市と美原町が合併	●赤阪小学校と多聞小学校が統合	●南河内南部広域小児急病診療体制を整備	●河内長野市との合併協議会を廃止	●河内長野市と小吹台小学校を統合	●河内長野市との合併協議会を設置	●赤阪小学校と多聞小学校が統合	●南河内4市町村下水道事務広域化協議会を設置	●安全保険関連連法の成立	●南河内広域事務室で、まちづくりや福祉に関する一部事務の共同処理開始	2011年 LINEサービス開始	2015年 初代Appie Watch発売	2020年 5G利用開始	2026年 ●村制施行70周年を迎える

3月号 (見開き1ページ)

・基礎自治機能の充実に向けたこれまでの歩み (年表形式/R2～R7について「協議会取組」を詳細に掲載)

11月号
・公共施設最適配置の取組 (文化ホール・給食センター)

12月号
・第4回住民アンケートの結果 part1 (未来協議会の取組に対する理解度等)

1月号
・第4回住民アンケートの結果 part2 (役場に求める行政サービス、市町村合併に対する疑問等)

本協議会の主な取組に対する職員の声を掲載することにより、現場の実感や取組の成果を住民にわかりやすく説明

住民アンケートの実施および結果の広報紙掲載 (令和6～7年度)

地域の現状や将来像についての住民の皆さんの意識や意見をお聞きし、将来のあり方検討や地域の「目指す未来像」の議論を進めるためにアンケートを実施しました。

住民アンケートには多くの方から回答をいただき、地域の関心の高さを感じました。いただいた声を今後の取り組みに活かしたいです!
(広報担当Y・O)

回答結果はこちら→



令和8年度も2町1村共通記事の1ページ掲載を継続

【今後の掲載(案)】

(5月号) 本協議会の開催結果

(6月号以降) 共同採用試験・イベントのPR、南河内基礎自治機能充実強化協議会の検討状況、個別課題の解説 等

住民アンケートの概要

目的

地域の現状や将来像についての住民の皆様の意識や意見をお聞きし、将来のあり方検討や地域の「めざす未来像」の議論、未来協議会に関する効果的な広報等に活かすことにより、2町1村の将来のあり方に関するオープンな議論を進める

対象・実施方法など

対象:2町1村にお住まいの方 回答方法:LoGoフォーム(電子申請) 周知方法:公式LINE・広報紙・ホームページ

これまでのアンケートの経過

住民と課題を共有しながら、将来のあり方に関するオープンな議論を行っていくために、アンケート結果を次回アンケートの設問に反映させることにより、議論の双方向化を図った。

市町村



- ①設問による問いかけ
- ③意見を反映した次の設問

議論の双方向化

- ②回答による意見表明



住民

R6

第1回



テーマ

人口減少・少子高齢化の実感／将来不安の内容／居留意向／住み続けるために必要なこと

次回に向けた設問

「住み続けるために必要なこと」を質問し、関心の高い分野を把握

第2回



テーマ

第1回で回答が多かった分野(交通・買物／医療福祉)にかかる各町村の具体施策の認知度と評価について質問

次回に向けた設問

将来のあり方議論への関心を質問し、関心の高まりを把握

R7

第3回



テーマ

あり方議論への関心の高まりを踏まえ、生活圏(近隣市町村との関わり)のほか、期待する未来像について質問

次回に向けた設問

期待する未来像について把握

第4回



テーマ

期待する未来像を踏まえ、未来像の実現に向けた本協議会の取組の認知度や選択肢の一つとしての合併等への関心を質問

次回に向けた設問

現時点で次回アンケート実施時期については未定。

※本資料は全設問のうち、次回のアンケートに反映した設問、住民の関心が高いと考えられる設問を抜粋して掲載

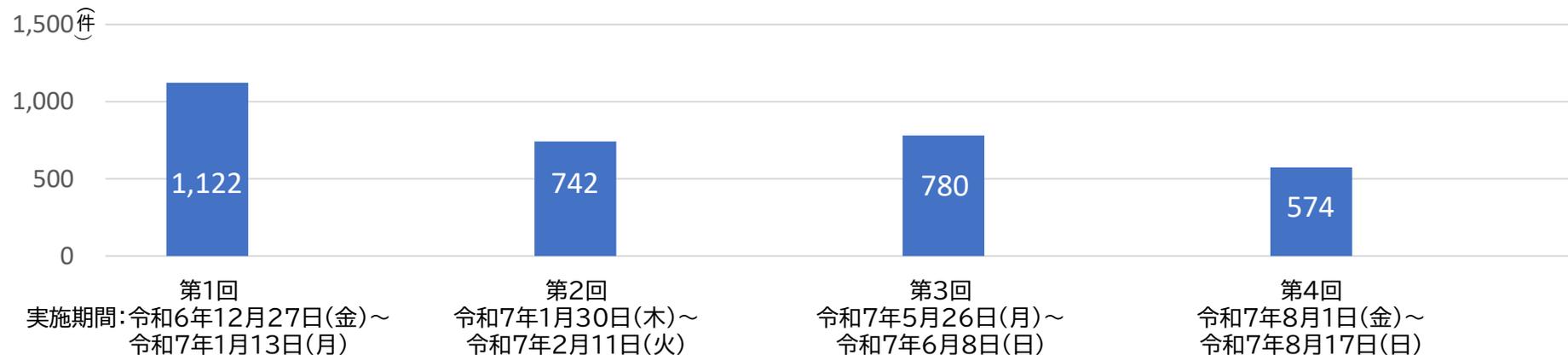


←全設問及び回答の詳細はこちら (大阪府市町村局ホームページ)

(<https://www.pref.osaka.lg.jp/o040060/shinko/miraiyougikai/miraiyokakosiryo2.html>)

結果の概要①

回答数の推移 4回で延べ3,200件を超え、住民目線での地域の課題と将来像に関する多数の意見を把握



結果の概要②

回答者の属性

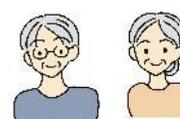
性別

性別は回により差はあるが、概ね女性がやや多い



年齢層

40～70代を中心に幅広い世代から回答
(50代以上が全体の7割以上)



職業

職業は会社員が最多。パート・アルバイト、無職、専業主婦(夫)も一定割合を占めるなど、幅広い職業の方から回答



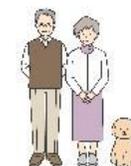
世帯構成

親と子どもで構成される世帯が全体の8割程度と最多



居住歴

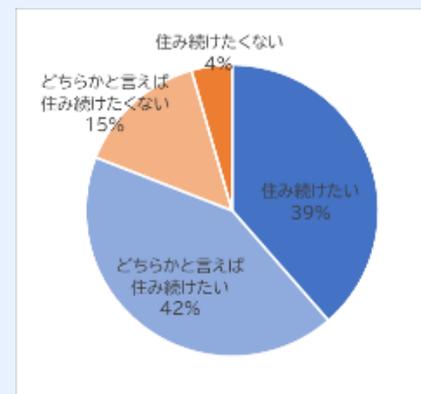
居住歴が20年を超える方が全体の7割強。最多は51年以上の居住歴がある階層であった



設問 居住意向について

回答

「住み続けたい」
「どちらかと言えば住み続けたい」
がおよそ**8割**

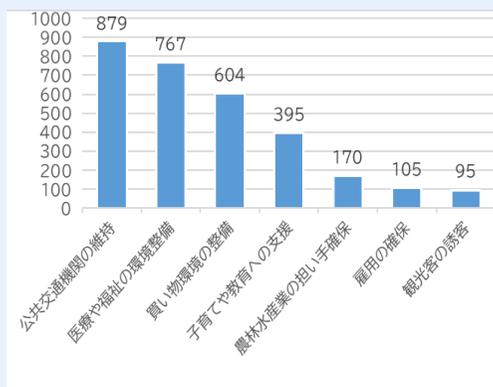


設問 まちに住み続けるために必要なこと

回答

(多い順に)

- ① 公共交通機関の維持
- ② 医療や福祉の環境整備
- ③ 買い物環境の整備



本問の結果を第2回アンケートの設問に反映

	40代以下	50代以上
交通	210人	669人
子育て	176人	医療福祉 600人
医療福祉	167人	買い物 460人
買い物	144人	子育て 219人
雇用	42人	産業担い手 132人

設問 町・村の人口減少・少子高齢化について思うこと(自由記述) ※原文のまま・一部抜粋

回答

移住者が増加するような対策を考えてほしい。子育て環境は良いのに知らない人が多いのでアピール不足と思う
(千早赤阪村・50代女性)

少子化で子供が減っているとは思いますが、朝など登校時の小学生が挨拶してくるのは微笑ましく思う
(太子町・50代女性)

未就学児を育てるには非常にいい環境が整っていると思います。町内に立派な認定子ども園が2つもあること、待機児童がない事、おやこ園の施設や子ども向けイベントの充実。一時預かり制度など、近隣の自治体と比較しても河南町の支援はとても良いと思います
(河南町・30代女性)

子育て・教育

今年は金剛バスの問題があり不安であったが、なんとか変わりなく維持して貰えたのは助かった。交通面が不便な分高齢のドライバーが増えるのが不安であるし、自分もいつまで運転できるのか不安
(河南町・60代女性)

スーパーへ直接行けるような交通機関があればいいと思う。小学校も全域スクールバスが使えれば学区が遠くても少し離れている空き家にも引っ越してきやすいと思う
(千早赤阪村・30代女性)

今でも公共交通機関が少ないが、これからより少なくなることが心配
(太子町・10代男性)

公共交通

町村のあり方

合併をして効率化を図り生き残ることは重要
(太子町・40代男性)

河南町という名前や町に思い入れや敬意があるので合併はしてほしくない。政治や取り組みは一緒になっても良いけど、名前は変えて欲しくない
(河南町・20代女性)

このままだとこの村は消滅します。この地域を持続可能な地域にするような取り組み(たとえば近隣地域全体での合併等)を望みます
(千早赤阪村・60代男性)

その他

太子町に住む事のメリット等を積極的にアピールすると共に住んでいる人から良い所を町外の人に伝えられる交流の機会があれば良いかな
(太子町・70代女性)

自治会の維持が難しくなっているように感じる
(河南町・50代女性)

このアンケートがどう生かされるのかあまり期待できない
(太子町・30代女性)

第2回 結果と分析(住民が重要視する分野に関する取組の認知度と知ったきっかけ)

設問 各町村の取組の認知度と評価 (買い物・交通)

(太子町)子どもから高齢者、障がい者など様々な人がスムーズに乗降できるように、令和6年に2台の低床化車両を太子町コミュニティバス(たいしのってこバス)として導入したことについて

知っている 79% とても良い・良い取組だ 86%

(河南町)住民への生活支援および町内の事業者への経済対策として導入した、専用アプリまたはカードにより町内の加盟店で利用できるキャッシュレス決済サービス「カナちゃんコイン」について

知っている 98% とても良い・良い取組だ 83%

(千早赤阪村)村が75歳以上の高齢者や妊産婦等の方が外出する際に利用するタクシーやバスの運賃の一部を助成していることについて

知っている 60% とても良い・良い取組だ 95%

設問 各町村の取組の認知度と評価 (医療・福祉)

(太子町)健診や健康に関するイベントに参加したり、健康づくりに取組、スマイル(ポイント)を貯めて応募すると、参加賞や抽選で記念品がもらえる「たいしくんスマイル」について

知っている 97% とても良い・良い取組だ 75%

(河南町)安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの一環として、0歳から18歳までの子どもを対象とする「子ども医療費助成」及び18歳から22歳までの方を対象とする「かなん医療・U-22」について

知っている 56% とても良い・良い取組だ 88%

(千早赤阪村)村が、がんの早期発見・早期治療を目的に実施している各種がん検診(肺・胃・大腸・子宮・乳)費用を無料で受診できることについて

知っている 87% とても良い・良い取組だ 98%

回答 いずれの事業も **高い認知度** かつ **高評価**

設問 上記の事業を知ったきっかけ

回答 知ったきっかけは **広報紙が7割以上**

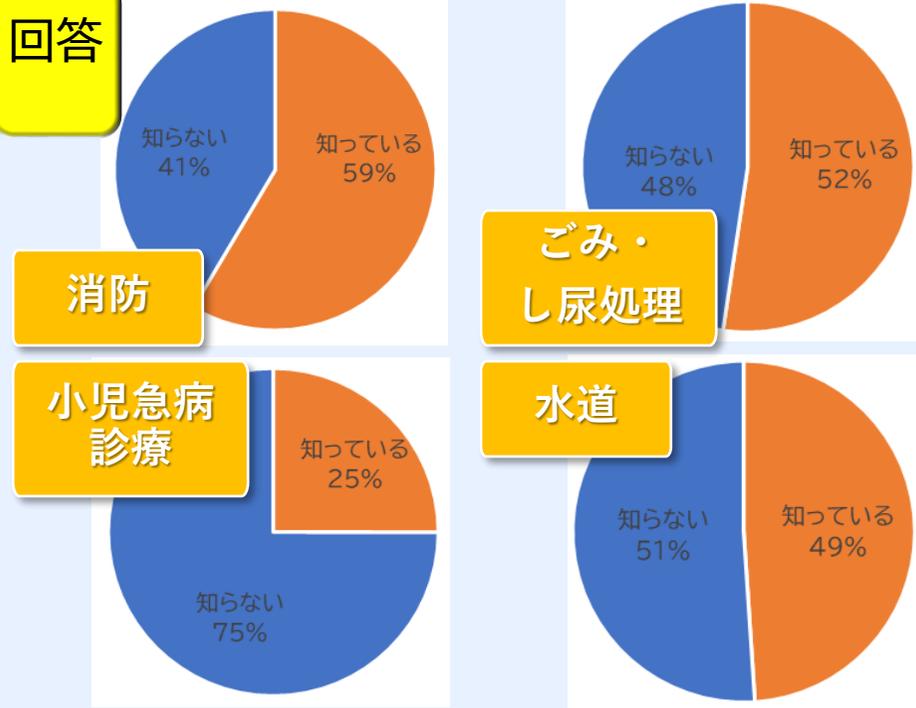


住民理解促進の取組 住民アンケート

第2回 結果と分析(広域連携・未来協議会の認知度及び取組評価について)

設問 既存の広域連携の認知度

回答



設問 既存の広域連携の取組の評価

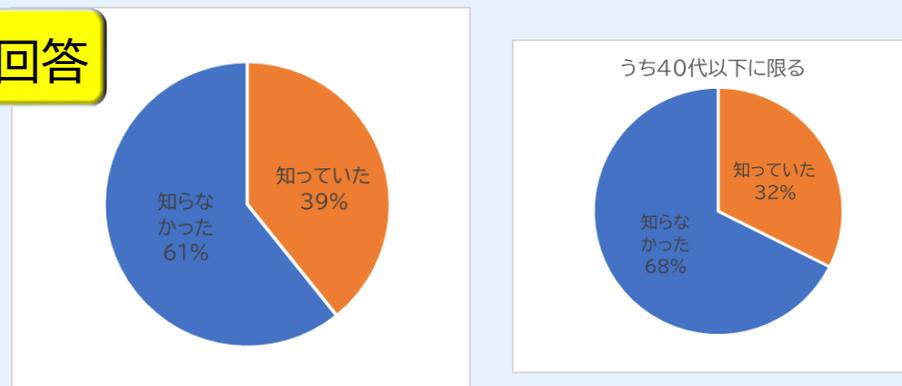
回答

既存の広域連携は**8割以上が高評価**

- 認知度が最も高い千早赤阪村で**最も評価が高かった**
- 取組の認知度が理解や評価につながる**ことを確認

設問 未来協議会及び検討内容についての認知度

回答



職員採用試験の共同実施は3割弱、サイクリングイベントは1割弱の認知度



設問 未来協議会の広域連携の取組の評価

回答

第2回アンケート回答者のうち、実施以前から未来協議会を知っていた人は**4割程度**

- 協議会の広域連携の取組の評価は**8割以上が高評価**
- 協議会の広域連携に係る自由記述は次頁のとおり

住民理解促進の取組 住民アンケート

第2回 結果と分析(未来協議会における広域連携への住民意見について)

設問 未来協議会における**広域連携の取組**について思うこと (自由記述) ※原文のまま・一部抜粋

回答

それぞれの自治体にとどまらず、しっかりと「広域」の視点に立って議論してほしい(60代男性)

活動内容や協議内容の報告と、決議内容の報告、また実施した事とその成果などを、町民に幅広く広報して欲しいです。(40代女性)

現役世代への負担が増えるのではないかと(40代男性)

千早赤阪村の良さを残しつつ、村民が住みにくくならないことを強く希望します。(60代女性)



近隣の市も巻き込み、中核市レベルでの合併を期待します。(40代女性)

人口減少、高齢者増加など課題がある地域が色々な分野で連携していくのは町の生き残りに必要なこと(70代女性)

行政の効率化のために他の町村と連携するのは分かるが、住民サービスの低下を招かないか不安である。(50代男性)

将来性を見越して良い取り組みだと思う。(50代男性)

住民理解促進の取組 住民アンケート

第2回 結果と分析(地域の未来予測について)

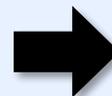
第1回住民アンケート「未来協議会で「地域の未来予測」を作成したことを知っているか」に対して、認知度は**17~24%**（令和6年12月末から令和7年1月上旬時点）

認知度・関心の向上のため、広報紙12月~2月号と公式LINEで地域の未来予測を紹介

設問 「地域の未来予測」の内容を見たか

回答

3割程度の方が実際に見たと回答
見ていない人も**過半数**が見てみたいと回答



広報の成果とみられる

設問 「地域の未来予測」をご覧になった感想（自由記述）※原文のまま・一部抜粋

回答



村単独では生き残れないことがハッキリした。
（千早赤阪村・70代男性）



南河内の2町1村の未来は視界良好とは言い難いが、より良いものにするためしっかり考えていかなければと思う（太子町・70代男性）



学校や給食センター、体育館などの老朽化について知るいい機会になった。人口減少が想像以上に進むことに驚いた（河南町・50代女性）



我々の世代とはちがって人口の減少により色々な課題に向き合っていかなければならない今日この頃公共施設の維持はもちろんのこと我々高齢者も若い世代に支えられている現状と今後の地域の未来はもちろんのこと考えていかなければと思います。そのためにも広報での掲載宜しくお願いします（河南町・70代女性）

住民理解促進の取組 住民アンケート

第3回 結果と分析(近隣自治体への愛着、南河内地域の魅力と課題について)

設問 近隣市への愛着、親しみの程度

回答

約80%

「非常に感じる」
+
「ある程度感じる」

設問 近隣2町村への愛着、親しみの程度

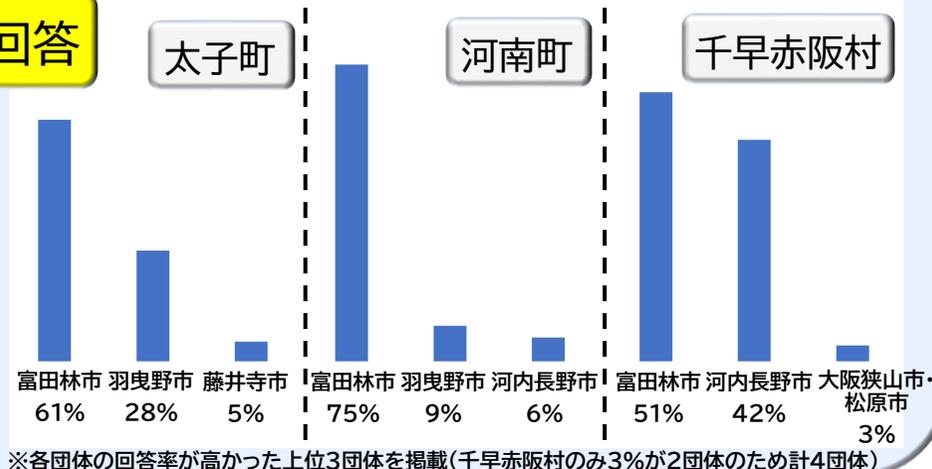
回答

約50%

「非常に感じる」
+
「ある程度感じる」

設問 近隣市で親しみを感ずる自治体

回答



設問 南河内地域の魅力は(複数回答)

回答

歴史的な名所が豊富



自然が豊か



設問 南河内地域の課題や改善点は(複数回答)

回答

「公共交通の利便性不足」の回答が最も多かった

設問 南河内地域の期待する未来像は(複数回答)

回答

「公共交通の充実」が割合として最上位(25%)
その他、「子育て施策の充実・強化」「自然と共生した生活」「農業・産業の再生と継承」がそれぞれ10%を超えた

設問 期待する未来像の具体的なイメージ(自由記述)※原文のまま・一部抜粋

回答

教育に力を入れ、未来を担う子どもたちを育てる町。教育熱心な町となれば、子育て世帯を呼び込める魅力を持つことに繋がるのではないかと。(50代女性)

通勤通学がしやすく、地域住民で協力しあえるような子育てのしやすいまち(30代女性)

自然豊かで、歴史的に魅力あふれる雰囲気、生活しやすい環境。「いつでも行けるふるさとの街」(50代男性)

大阪市のベッドタウンとしての町作り。今のまま、住みやすいので自然環境を維持しながら、駅までの足を便利にしながら、防災の確立した町。(70代男性)

農業や自然を活かして、病院、買い物、駅までの公共交通は充実させてほしい。(40代女性)

働ける所が豊富で、子供を産んで育てやすい環境が多くある事で、人口が増えて活気がある地域にしてほしい。(60代男性)

太子町

河南町

千早赤阪村

第3回 結果と分析(居住自治体情報の把握手段とSNS活用案について)

設問 居住自治体情報の把握手段
(複数回答可)

回答

広報紙
54%



自治体HP
26%

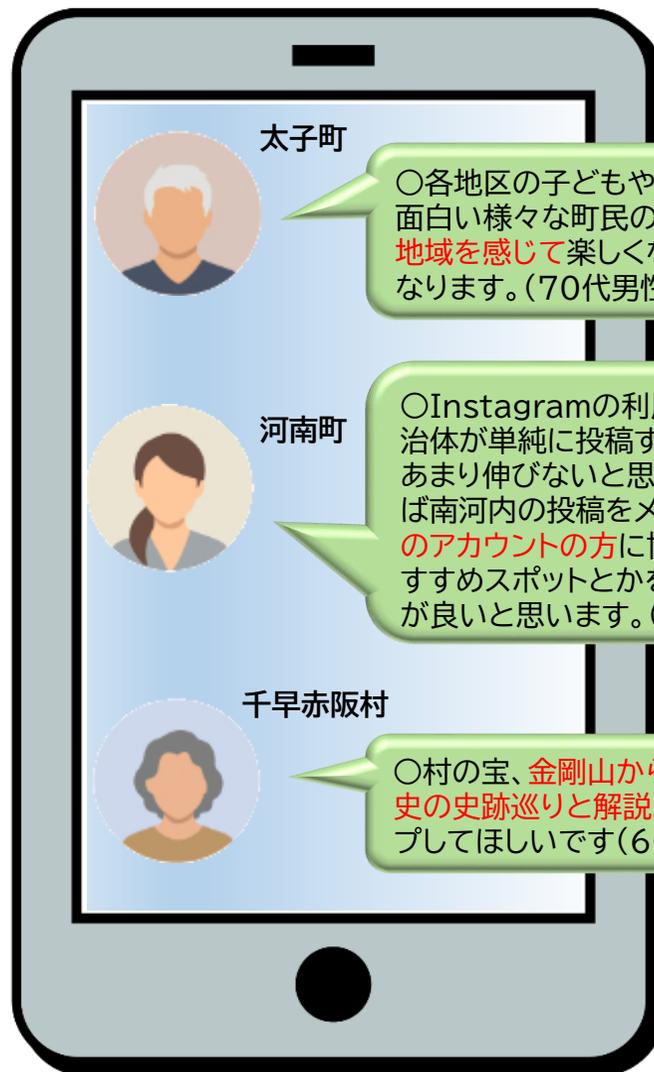


SNS
17%



設問 役場がSNSを活用した広報をするにあたっての、
提案・アイデア (自由記述) ※原文のまま・一部抜粋

回答



太子町

○各地区の子どもや大人、老人など活躍されたり、面白い様々な町民の人物紹介があれば、**身近に地域を感じて**楽しくなり、太子に暮らして嬉しくなります。(70代男性)

河南町

○Instagramの利用率は高いと思いますが、自治体が単純に投稿するInstagramは閲覧数はあまり伸びないと思うので、始めのほうは、例えば南河内の投稿をメインとして上げている**一般のアカウントの方**に協力してもらって河南町のおすすめスポットとかを上げて拡散してもらおうとかが良いと思います。(30代女性)

千早赤阪村

○村の宝、**金剛山からの四季折々の中継**。村の歴史の**史跡巡りと解説**。YouTubeを是非ともアップしてほしいです(60代女性)

設問 未来協議会の取組のうち、知っているものを教えてください(複数回答)

- 回答**
- 将来のあり方に関する調査・検討(2町1村地域の未来予測の作成):23%
 - 取り組みを知らない:23%
 - 人材の確保(採用試験の共同実施等):19%
 - 現状や課題についての住民理解促進に向けた情報発信(広報紙を活用した情報発信等):11%
 - 公共施設の最適配置(文化ホールの相互利用等):10%
 - 地域活性化(サイクリングイベントの実施等):8%
 - 事務の共通化・共同化(入札参加事業者登録事務の共同実施等):6% (割合順)



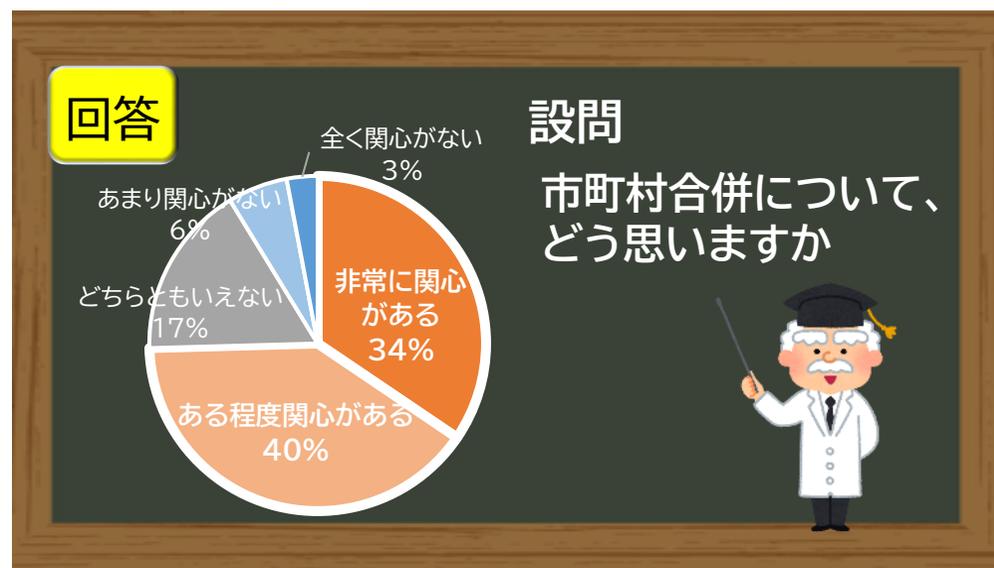
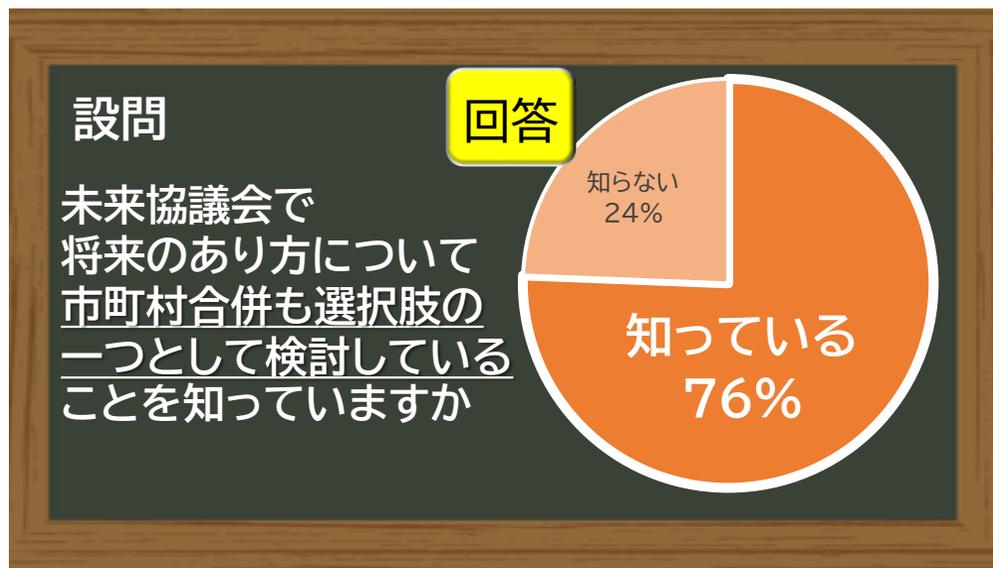
設問 それらの取組についてどう思いますか

- 回答**
- 「とても良い取組だと思う」
「良い取組だと思う」
の回答割合がおよそ7割

取組について「その他」と回答した方の意見

- 取り組みそのものは良いことだと思うし反対もしないが、取り組み後の町の姿がイメージしにくい。なので、ビフォー・アフターが明確になるように町民へ「もっと説明する」必要あるのでは？現状は、PRが足りていないと思う。(60代男性)
- どのような取り組みがされているのか目に見えてこない。この協議会が開催されていることすら周知されていない。(30代男性)
- 内容を詳しく知らない為、判断できない。(50代男性)





設問 市町村合併について、疑問やわからないことがあれば記入してください
(自由記述)※原文のまま・一部抜粋

回答



役所などの統一はどうか
(千早赤阪村・20代男性)

各世帯の税金の負担が増えるのか否か。
自治体の施設等の利用などのサービスはどのように変わるのか。(太子町・50代男性)



行政サービス、公共交通は今以上に向上するのか？
また、税金、特に町民税は上がるのか？
(河南町・40代女性)

役場が身近なところがあると、相談などがしやすいが、合併されると役所へ行くのが遠くて不便になるように思う。
(太子町・40代女性)



住民理解促進の取組 住民アンケート

第4回 結果と分析(未来協議会に関する疑問等について)

設問 未来協議会について、疑問や知りたいこと、今後取り組んでほしいことがあれば記入してください(自由記述)※原文のまま・一部抜粋

回答

情報発信

合併した場合のメリットデメリット、生じた問題点などをしっかりと広報していただきたいです。(河南町・40代女性)

合併してメリットになる情報を知りたい(太子町・60代女性)

もっと、全面に出て情報発信してほしい。よく知らなかったから(千早赤阪村・40代)



その他

三町村共通の課題として環境保全を重視して欲しい。経済的な問題もあると思うが三町村ならではの特性と相まって最重要と考える。山間部等が増え続ける廃材、資材置場、大型車両置場等の規制をして欲しい。自然環境は三町村の持ち味というか守るべき資産でもあると思う。失うのは簡単だが再生は困難と思うので。(河南町・70代女性)

南河内全体での広域連携(太子町・50代男性)

2町1村で、行政事務など共同で取り組むことは良い事とおもう。しかし、その事と町村合併は別だ。未来協議会は、合併するために誘導しているように思える。繰り返しになるが、事務の効率化をはかる為に共同することは良い事と思うが、合併推進するのは反対だ。(千早赤阪村・70代女性)



教育・子育て

子育て世代が住みたいまちづくりをアピールして若者が住んで良かったと言える取り組みを期待します。自分や他人を大切に将来に夢見ながら目的に向かって実践できる子供達が増える賢い子供を育てる学校作りを期待しています。(太子町・70代女性)

河南町の教育制度は、とても充実していると息子を育てて感じました。その事をもっとアピールし、子育て世帯を呼び込む手段に出来ないのかな?といつも思っています。中学校の給食や、中学生の海外ホームステイ、小学校の英語教育導入の早かったこと、医療費22歳まで助成などなど、とても魅力的な事が沢山あると思いますよ。(河南町・50代女性)



観光・企業誘致

人口が増える見込みがないので、観光振興や企業誘致をもっと積極的に行うべきではないですか。衰退する一方です。(太子町・40代男性)

2町1村巡り(日帰り観光コースや仏閣巡りの提案)などをSNSなどでされたらどうかな~と思います(河南町・50代女性)

産業振興 この地域で独自の産業を興す。地域を豊かにしたい、具体案はまだないけど今後アイデアを考えていきたい(千早赤阪村・70代女性)



第1回

- 定住意向は高く、**住み続ける条件は「公共交通」「医療・福祉」「買い物」が上位。**
- 人口減少・少子高齢化の実感と将来不安を背景に、生活基盤の維持・充実に対する継続的な関心あり。

第2回

- 重点分野の具体施策は「高認知・高評価」で、住民評価は概ね肯定的。
- 既存の広域連携も高評価で、**「認知→理解・評価」**につながる傾向があり、**広報が重要**であることが判明。
- 未来協議会は取組自体は評価される一方、個別取組の認知には伸びしろがあり、**説明・周知強化**が課題。

第3回

- 地域の魅力は「自然」「歴史資源」に集約され、強みとして共有可能な要素が整理できた。
- 最大の課題は「公共交通の利便性不足」で、未来像でも「公共交通の充実」が最優先。交通が2町1村の共通課題。
- 情報入手は「広報紙」が中心、SNSは「LINE」が高比率**で、媒体特性に応じた広報設計が重要。

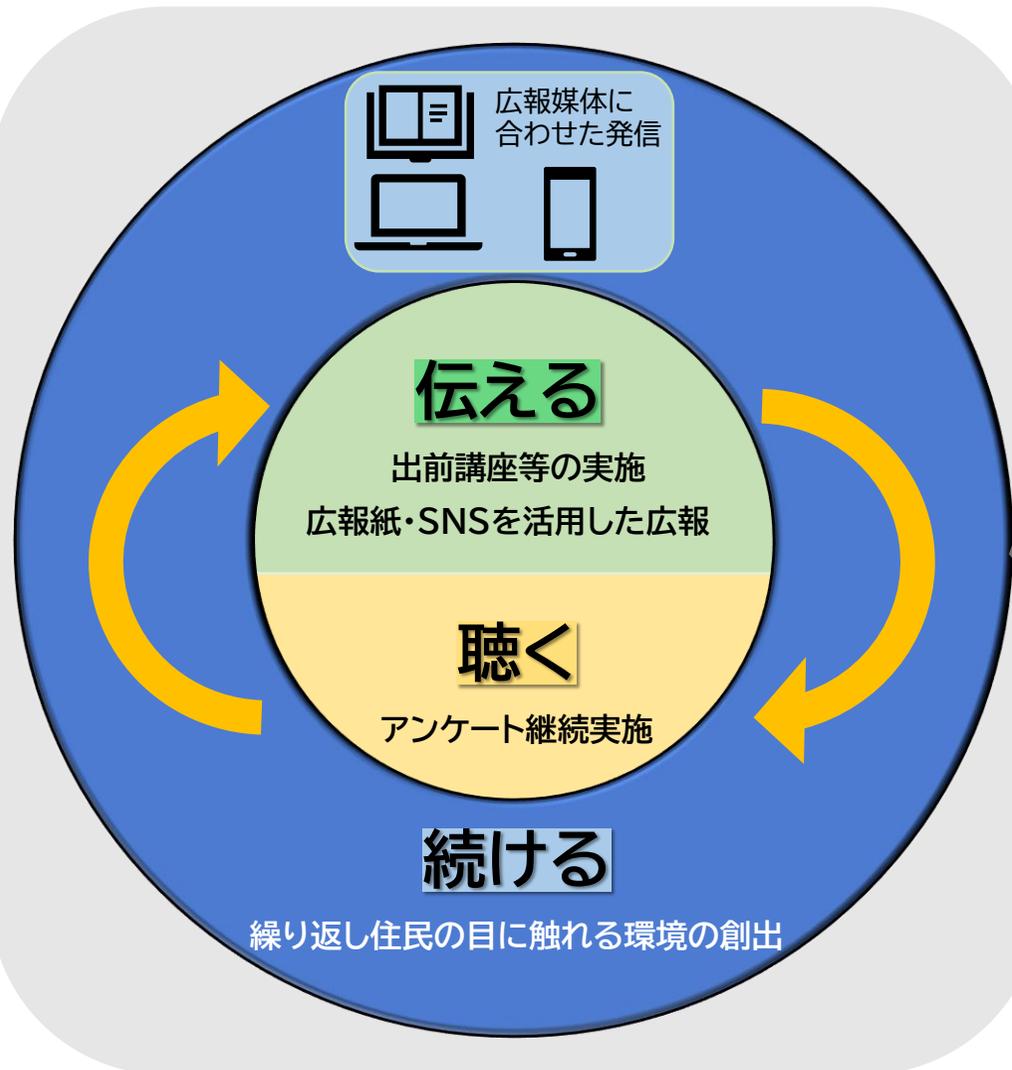
第4回

- 未来協議会は肯定評価が多数だが、**「取組内容が不明」との声も**確認。
- 合併に一定の関心**があり、疑問は「税負担」「住民サービス」「窓口の距離」など日常生活に関わるものが多数。

令和7年度は『地域の現状や将来像についての住民の皆様意識や意見をお聞きし、将来のあり方検討や地域の「目指す未来像」の議論、未来協議会に関する効果的な広報等に活かすことにより、2町1村の将来のあり方に関するオープンな議論を進める』を目的に、令和6年度と合わせて4回のアンケートを実施。住民の地域の現状や将来像に対する意見・思い(関心や期待、不安等)を把握することができた。 今後は、アンケートでいただいたご意見を議論に活かすとともに、未来協議会や将来のあり方議論に関する住民の疑問の解消に向けて、広報紙の取組とあわせて次頁のとおり取り組むこととする。

これまで実施した計4回の住民アンケートの分析結果と広報紙掲載の取組を踏まえ、

「伝える×聴く×続ける」を重視し、よりオープンな議論と住民理解促進を実施



令和8年度の取組の方向性(案)



- **広報紙を活用した協議会の周知の継続**
取組・検討の全体像や最新の状況、取組前後の変化等について連載を継続することとし、繰り返し住民の目に触れる環境を作ること、さらなる理解促進を図る。
- **SNSを活用した広報の強化**
LINEによる住民アンケートで住民がSNSを活用した広報に関心があると確認できたことから実施を検討。府の取組との連携など詳細は今後調整。
- **出前講座等の実施検討**
協議会の取組紹介や課題の共有、住民が将来のあり方議論に関して抱く疑問の解消等を目的として実施を検討。
- **住民アンケートの継続実施**
市町村の将来像について住民の意見や意識を踏まえたオープンな議論を行うため、アンケートを継続実施する。



アンケート等を通じて住民の意見を把握しつつ、多様な広報媒体を活用した発信を続けることにより協議会の取組や地域の課題、めざす未来像への住民の認知・関心・理解が向上する

住民との十分な議論のもとで市町村の将来のあり方の検討が進展

2-2. 広域連携部会の検討内容

01 専門人材の確保

02 公共施設の最適配置

03 事務の共通化・共同化

04 地域活性化

■具体的な対応方策① 採用試験の見直し(試験内容の見直し・採用試験の共同実施)

今年度の実施状況

■令和8年4月採用 南河内地域2町1村 職員採用試験

実施結果(行政職)

申込者…105名

合格者…太子町:2名 河南町:5名 千早赤阪村:3名

採用試験のフロー

一次試験…集団面接(共同実施)



二次試験…集団討論(共同実施)

※二次試験の共同実施は今回からの取組

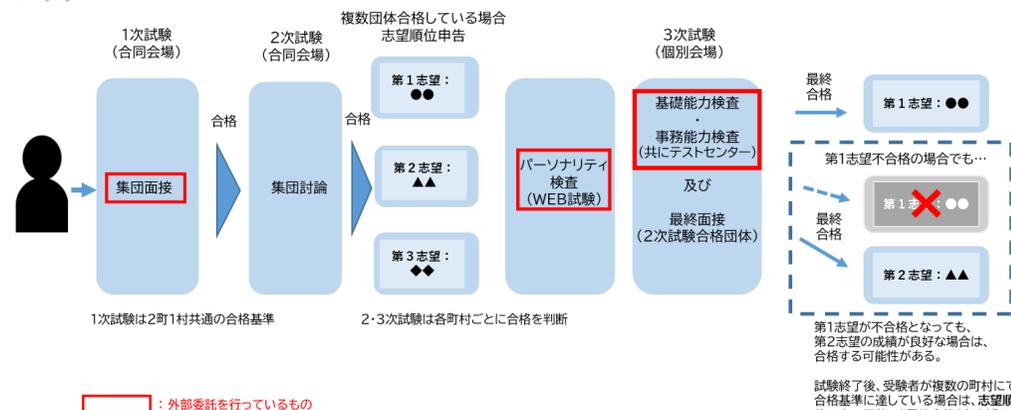


三次試験…個別面接

広報活動

今年度から新たに民間サービス(パブリックコネクト)を活用し、受験者へのアプローチを強化

南河内地域2町1村共同採用試験のスキーム



■具体的な対応方策② 専門職員の有効活用・共同での研修実施

今年度の実施状況

■技術職員合同説明会への参加

■日程

令和7年12月14日(日)

■参加団体

大阪府・大阪市・和泉市・岸和田市・泉佐野市・松原市・太子町・河南町・千早赤阪村・八尾市・柏原市・東大阪市・
公益財団法人大阪府都市整備推進センター・大阪湾広域臨海環境整備センター・大阪府住宅供給公社

※13日も開催され、他団体が参加

■場所

大阪府庁 咲州ホール

■対象者

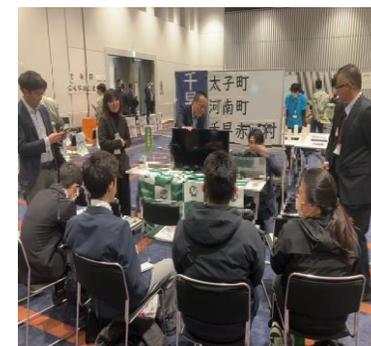
技術職公務員等に興味のある方（保護者や教員の参加も可）

■内容

技術職公務員等に興味のある方に対して、2町1村の人事担当・土木担当(技術職員)が業務内容等を紹介

■ブース来場者数

18名(6チーム合計)



専門人材の確保(研修等の共同実施)

■具体的な対応方策② 専門職員の有効活用・共同での研修実施

今年度の実施状況

■ゲートキーパー研修

日時…令和8年2月20日(金)

場所…河南町役場 4階 大会議室

参加…14名

内容…自殺の現状、自殺を考えている人への対応、ロールプレイ等

■具体的な対応方策③ 採用予定者交流会の共同実施

今年度の実施状況

■2町1村採用予定者交流会

日時…令和7年11月26日(水)

場所…ぷくぷくドーム(河南町)

参加…11名+先輩職員

内容…レクリエーション、講義、先輩職員との座談会等



専門人材の確保(南河内2町1村 共同採用試験の振り返り(R5~R7)及び今後の展開)

取組経過

R5度取組内容

行政職等にかかる職員採用試験について、1次試験(学力試験)を共同で実施

技術職(土木職)について、共同研修会を実施

令和6年度採用予定者に対する採用予定者交流会を実施

R6度取組内容

共同採用試験について、1次試験の集団面接を外部委託にて共同で実施

ゲートキーパー研修の共同実施

技術職共同研修会、採用予定者による交流会の共同実施を実施

R7度取組内容

共同採用試験について、1次試験(集団面接:外部委託)・2次試験(集団討論)を共同で実施

民間サイト利用による採用試験案内の周知強化

(都市整備部実施)技術職公務員等合同説明会へ共同で参加【12/14実施】

技術職共同研修会、採用予定者による交流会の共同実施を実施【R8度以降も継続予定】

【参考】応募者数(行政職)

(人)

採用年月	R4度実施	R5度実施	R6度実施	R7度実施
太子町	33	146	116	105
河南町	70			
千早赤阪村	24			

⇒行政職の応募者数については各町村が個別で実施していた時と比較して応募人数が多く、採用人数を安定的に確保できている。

- 行政職は採用人数を安定的に確保できている一方で、行政職以外は定数管理との兼ね合いで団体間での募集時期にバラつきが発生し、実質的に共同採用試験が実施できていない。
(募集をかけても応募が無いケースもある)
また、自治体間で技術職員の年齢構成にもバラつきが発生しており、技術面の継承も課題になりつつある。

【参考】募集人数(土木職) カッコ内は採用人数

(人)

採用年月	R4.4	R4途中	R5.4	R5途中	R6.4	R6途中	R7.4	R7.途中
太子町	0	1(1)	0	0	0	0	0	1(1)
河南町	1(0)	0	1(※)	0	2(※)	0	2(※)	0
千早赤阪村	1(0)	1(0)	1(1)	0	0	1(※)	1(※)	1(0)

※ 応募なし

⇒行政職の採用試験については、一定効果があることから翌年度以降も継続して実施。

⇒人口減少等により土木職を中心に技術職の人材確保が困難になることは明白であることから将来計画や業務量等、将来予測を踏まえた魅力ある職場づくりや人材を確保・育成するための、より踏み込んだ施策をR8年度は検討する。

以下、取組みのイメージ(R8年度にかけて人材チームで実施の可否を検討)

●人材確保

- 採用枠の拡充
イメージ: 2町1村間での団体を越えたカムバック採用
公務員経験者(OB含む)採用の共同実施
- 採用試験の柔軟化
イメージ: 共同試験(1次試験)の早期実施、柔軟な採用時期の検討
- 採用試験に関する広報の充実
イメージ: 鉄道・バス等における広告への掲載、関西以外(関東など)での広報活動
合同インターンシップの実施、若年層(小中学生等)への情報発信等

●人材育成

- 研修会の充実
イメージ: 入庁前研修の更なる充実、1,2,3年目研修の共同実施
- 専門職に限らない専門人材の育成
イメージ: 土木系部署に所属する行政職向け研修の合同実施、インフラメンテナンス
人材育成支援制度の活用
- 専門職の人材プール制度の構築
イメージ: 町村間における専門職の相互派遣
(町村間派遣を前提とした採用試験の実施)

2-2. 広域連携部会の検討内容

01 専門人材の確保

02 公共施設の最適配置

03 事務の共通化・共同化

04 地域活性化

公共施設の最適配置(給食センター)

給食センターの将来的な集約化などに向けた検討

2町1村の状況を比較

・給食業務の運営経費

(水道光熱費、消耗品費、役務費など)

⇒3団体間で大きな差異はない。

・施設の修繕費

・給食設備の更新費

⇒施設の老朽化が進む太子町と千早赤阪村は、築年数が比較的浅い河南町よりも費用が大きくなる。昨今の物価高の影響を考慮した費用等の算出は困難。

・その他の費用

(清掃関連委託費、廃棄物収集委託費など)

⇒3団体間で大きな差異はない。

・「食物アレルギー対応食」の対応状況

実 施⇒河南町、千早赤阪村

未実施⇒太子町[対応食については個別対応はしていないが、食物アレルギーの原因食物(そば・エビ・カニ・ナッツ類等)を除いた給食を提供するなど食物アレルギーを意識し工夫している。]

・献立や物資調達の決定方法

⇒各団体間でバラつき有。連携時には調整が必要。

・配送所要時間のシミュレーション

⇒例えば、河南町立学校給食センターから太子町及び千早赤阪村の小中学校・幼稚園へ、学校給食衛生管理基準(文部科学省)を満たす配送は可能。



検討を進めるにあたっての課題

職員だけで、施設や調理設備に係る経費(維持管理・更新費用等)の試算及びアレルギー対応・連携手法を含む諸課題について更なる調査・検討を進めるのは限界がある。



民間の専門的なノウハウ・知見を活かした調査・分析が有効



今後の
方向性

- 老朽化の課題がある太子町・千早赤阪村にて、施設や調理設備に係る経費(維持管理・更新費用等)を試算し、共同利用時の食物アレルギー対応や連携手法を含む給食センターの再編等可能性調査を民間委託
- 調査結果を基に、2町1村の給食センターのあり方について検討を進める。

2-2. 広域連携部会の検討内容

01 専門人材の確保

02 公共施設の最適配置

03 事務の共通化・共同化

04 地域活性化

事務の共通化・共同化(入札事業者登録事務)【令和6年度第3回協議会資料より】

■入札参加のための事業者登録事務の共同実施

登録資格ごとの有効期間の統一について、検討を開始

- ・ 現状、太子町・千早赤阪村は資格の有効期間が2年、河南町は3年
- ・ 河南町は各資格の有効期間が一年ずつずれているため、どの年度に共同化を開始したとしても、いずれかの分野の資格は有効期間を調整する必要がある
- ・ 有効期間の延長・短縮や、延長のうえ追加申請を受け付けるかなど、様々な対応方法が考えられる

パターン例① 令和9年度から3分野の資格を同時に共同化

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
工建設	太子町・千早赤阪村			単独	単独	共同	共同	共同
	河南町			単独	単独	共同	共同	共同

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
コンサル・測量	太子町・千早赤阪村			単独	単独	共同	共同	共同
	河南町		単独	単独	単独	共同	共同	共同

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
役物品	太子町・千早赤阪村			単独	単独	共同	共同	共同
	河南町	単独	単独	単独	延長	共同	共同	共同

パターン例② 令和9年度から順次共同化

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
工建設	太子町・千早赤阪村			単独	単独	延長	共同	共同
	河南町			単独	単独	単独	共同	共同

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
コンサル・測量	太子町・千早赤阪村			単独	単独	共同	共同	共同
	河南町		単独	単独	単独	共同	共同	共同

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
役物品	太子町・千早赤阪村			単独	単独	共同	共同	共同
	河南町	単独	単独	単独	延長	共同	共同	共同

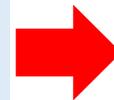
※他にも様々なパターンを検討し、調整中。

なお、太子町では本協議会での検討を契機(※)に、令和6年度から審査業務の委託を開始

※千早赤阪村が先行して取組を進めていた方法が共有されたもの

これまで……

- ・常勤職員の長時間の審査業務・時間的拘束
- ・審査時期に会計年度職員を臨時で雇用
- ・審査業務用に大きな会議室を長期間確保



これらの全てが不要に！

- ・経費節減効果を委託費用に充当
- ・担当職員から「大幅に業務が効率化された」との声

事務の共通化・共同化(入札事業者登録事務)

■入札参加のための事業者登録事務の共同実施に係る今後のスケジュール

登録資格ごとの有効期間の統一について、検討した結果、下記のスケジュールで進めていくことで一致

- 「測量・コンサル」、「物品・役務」については、令和9年度より共同化
- 「建設工事」については、太子町・千早赤阪村が令和9年度より共同化。河南町は令和10年度より共同化

		R7	R8	R9	R10	R11	R12
コンサル・測量	太子町・千早赤阪村	→ 選定・契約	→ 選定・契約	共同	共同	共同	
	河南町	→ 選定・契約	→ 選定・契約	共同	共同	共同	
物品・役務	太子町・千早赤阪村	→ 選定・契約	→ 選定・契約	共同	共同	共同	
	河南町	→ 選定・契約	→ 選定・契約	共同	共同	共同	
建設工事	太子町・千早赤阪村	→ 選定・契約	→ 選定・契約	1町1村			共同
	河南町	↑	→ 選定・契約	共同化	共同化		共同

令和8年度中に事業者選定・契約を行うことから、様式や委託の内容について、令和8年度初め頃までに統一・整理する必要がある

令和9年度分入札事業者登録から事業者に事務を共同で委託する場合、令和8年度中に事業者選定/契約を行う必要がある
→ 令和8年度予算に計上

事務の共通化・共同化(入札事業者登録事務)

令和7年度の検討状況

検討事項	検討状況	
申請項目	統一化に向けて整理・検討中	
申請様式		
必要書類		
資格の種類・営業品目		
有効期間		
受付方法		
審査体制・事務フロー		
資格審査の結果の通知方法 (資格者名簿の登載等)		
名簿の公開		
追加申請の実施		
予算確保		予算計上済
費用負担額の算出方法		算出方法について検討・調整中

令和8年度の検討方針

- 詳細な制度設計を検討し、事業者の選定・契約に向けて調整を進める
※なお、制度設計にあたっては、入札事業者登録事務の共同化に向けた国の方針を踏まえながら、検討を進めていく

事務の共通化・共同化(基幹系業務システム標準化に伴う事務共同処理の検討)

■基幹系業務システムの標準化対応を契機とした事務共同処理の検討

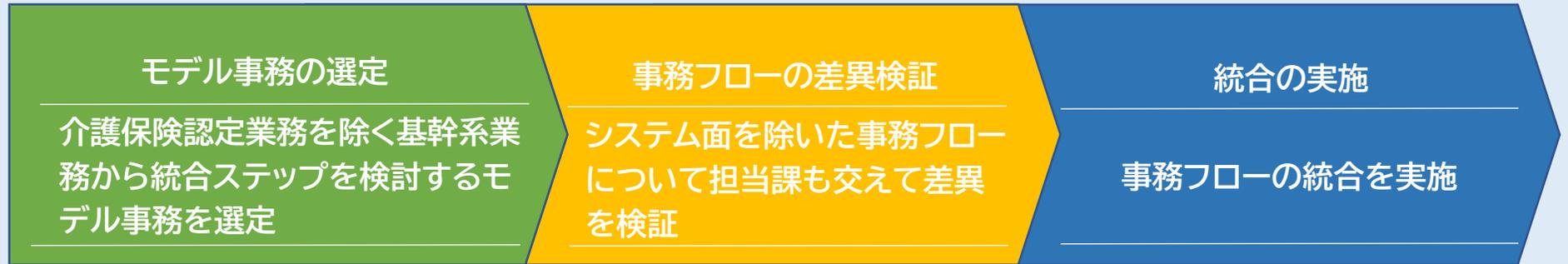
「介護認定審査業務」をモデル事務として差異を検証し、基幹システム統合・基幹事務の処理共同化に向けた具体的な検討を進めるも、担当課より「現時点ではシステムの共同化の時期が未定のため事務フローの細部まで統合することは困難」との意見あり



今後は、2町1村間で事務処理の差異が「大きい」業務について事務フローの統合に向けた検討を実施

【R8年度検討の進め方(※)】

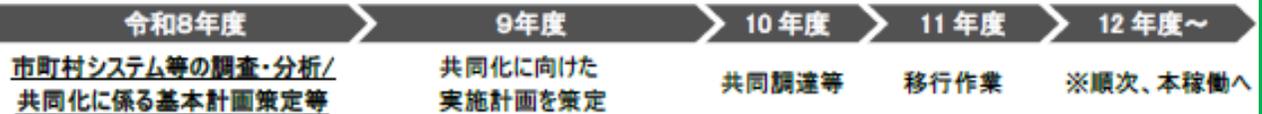
(事務フローの統合)



(システムの共同化)

大阪府スマートシティ戦略部の「市町村 DX 推進力強化事業」を活用し、システム標準化の対象である基幹業務システムを中心としたシステム共同化に向けて、府と2町1村を含む市町村の連携のもと、研究会を立ち上げ、調査・分析を実施

【スケジュールイメージ(予定)】



※今後システム共同化の取組が進展していく中で、共同処理について、より詳細な調査・検討を行う。

事務の共通化・共同化(業務の連携強化)

令和7年度の取組

令和6年度から空き家対策担当者勉強会や文化財保護担当者研修・意見交換会を実施し、2町1村における研修等の共同実施を通じて、事務ノウハウの維持・共有、事務負担の軽減に取り組んできた



研修等の共同実施に一定の効果が見られたことから、研修等の共同実施が可能な分野についてさらなる検討を行った



2町1村で検討した結果、令和7年度は以下の研修について共同実施の可能性を検討することとなった

研修名：チェーンソー及び刈払機の特別講習

実施理由：安全衛生法第59条3項及び規則第36条8項において、業務でチェーンソーを使用する場合、業務に従事する者に対し、当該業務に関する安全又は衛生のための特別の教育を行わなければならないと定められている
また、厚生労働省通達において、業務で草刈り機を使用する場合、業務に従事する者に対し、当該業務に関する安全又は衛生のための特別の教育に準じた教育を行わなければならないと定められている

→当該研修は各団体において定期的実施しており、共同実施による事務負担の軽減が見込まれる

空き家対策担当者勉強会



文化財保護担当者研修・意見交換会



事務の共通化・共同化(業務の連携強化)

<事業の共同実施例:事業所管部局開催> 地域就労支援事業

太子町と河南町は地域就労支援事業のうち職業能力開発事業として医療事務講座を共同で実施している

- ◆地域就労支援事業・・・各市町村が地域にある様々な支援機関と連携して、働く意欲がありながら就職に結びつかない方々を支援する事業。府内の全市町村において実施している
- ◆職業能力開発事業・・・求職者や退職予定者に対して再就職に必要な知識や技能の講習・訓練の実施等、労働者の能力の開発・向上のために実施する事業

■事業概要

所管部局：〈太子町〉まちづくり推進部 観光産業課
〈河南町〉まち創造部 農林商工観光課

開催頻度：年1回（2～4時間/日 全8回～10回の講座）

事業内容：令和6年度医療事務講座（2町・対面方式・9回・13名）
令和5年度調剤薬局事務講座（2町・対面方式・9回・18名）
令和4年度医療事務講座（2町・対面方式・9回・7名）
令和3年度調剤薬局事務講座（2町1村・オンライン8回・8名）

調整手順：当番を輪番制とし、当番団体で業者選考、委託契約関係事務準備、会場設定を行う
⇒各団体で契約関係事務処理を行い、自治体(2者)と業者で3者契約
⇒支払いは委託料を団体数で按分して、各団体へ業者から請求(端数は当番団体負担)
⇒各団体から業者へ支払い

予算取扱：各団体で毎年予算計上



事務の共通化・共同化(業務の連携強化)

<研修の共同実施例:研修協議会> 南河内郡町村研修協議会

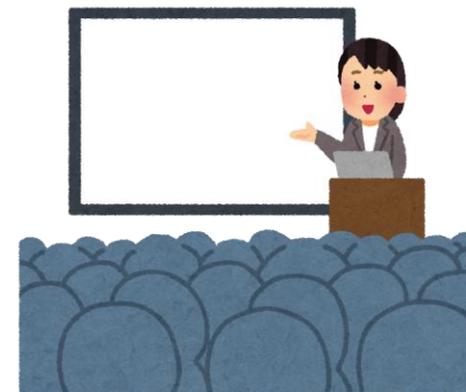
太子町・河南町・千早赤阪村では「南河内郡町村研修協議会」の枠組みを構築し、複数の研修を共同で実施している

■事業概要

所管部局：〈太子町〉 政策総務部 秘書政策課
〈河南町〉 政策総務部 人事財政課
〈千早赤阪村〉 総務部 秘書財政課

開催頻度：年に13件ほどの研修を実施(うち中部都市職員研修協議会は9件)

※中部都市職員研修協議会・・・府内12団体(八尾市、富田林市、河内長野市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、東大阪市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村)の職員の相互啓発を促進し、研修における共通の課題について研究・協議を行い、もって相互の研修の健全な発展を期することを目的に実施



事業内容：南河内2町1村の職員研修の共同実施

調整手順：会長市は3町村で輪番。会長市が協議会の会計(予算執行)を行う
各団体で担当となる研修を決める(輪番制)
⇒各団体それぞれ担当となる研修の内容を決める
⇒各団体は会場確保等を段取りし、各町村に通知し、研修を実施
⇒会長市が協議会の予算から業者に支払う

予算取扱：各自治体で協議会負担金を計上
年度当初に負担金を協議会会計に支出
年度終了後に清算

事務の共通化・共同化(業務の連携強化)

2町1村におけるチェーンソー及び刈払機の特別講習の現状・比較

- 各団体における事務的・予算的負担について、現状と共同実施した場合を比較
- 共同実施した場合については、各団体5名の合計15名の参加者がいることを想定
- 共同実施は、前出の事業の共同実施例及び研修の共同実施例の2パターンを掲載
- 受講者については、チェーンソー及び刈払機両方の講習を受講しているものと仮定して金額を計算
- 人件費単価は大阪版地方分権推進制度実施要綱第2の4(1)アaに規定する「1人1時間当たり人件費」を使用
- 共同実施時の人件費は各団体の「1人1時間当たり人件費」の平均額を使用

	各団体単独実施時			共同実施時	
	太子町	河南町	千早赤阪村	パターン①:事業所管部局開催	パターン②:研修協議会
事務頻度	年1回	年1回	3年に1回程度	各団体3年に1回の輪番制	年1回(幹事は輪番制)
担当部局	まちづくり推進部 地域整備課	まち創造部 地域整備課	危機管理課(当時)	【太子町】まちづくり推進部 地域整備課 【河南町】まち創造部 地域整備課 【千早赤阪村】総務部 自治防災課	【太子町】政策総務部 秘書政策課 【河南町】政策総務部 人事財政課 【千早赤阪村】総務部 秘書財政課
想定受講者数 (各団体)	5名			15名	
想定金額 (各団体)	約25万～31万円			約20万円	
想定金額 (合計)	約81万円			約55万円	
想定金額 (1人当たり)	約5万～7万円			約3万7千円	



- 2町1村全体で30%以上の予算的負担の削減が見込まれる
- 輪番制になることにより、事務処理時間の削減や継続的な研修実施体制の確保が見込まれる
- 事務所管部局による輪番開催と研修協議会での開催では、所管課の違いはあるが、事務負担の削減率についての差異は見受けられない

事務の共通化・共同化(業務の連携強化)

開催・運営方針(イメージ)

【契約主体】

- 2町1村の輪番制

【想定研修受講者数】

- 太子町及び河南町においては、潜在的な受講対象者が30名程度見込まれ、例年受講者がいることから、各団体、毎年5名受講と想定
- 千早赤阪村は受講者対象者数が少ないことから、3年に1回の受講とする

【想定される予算区分】

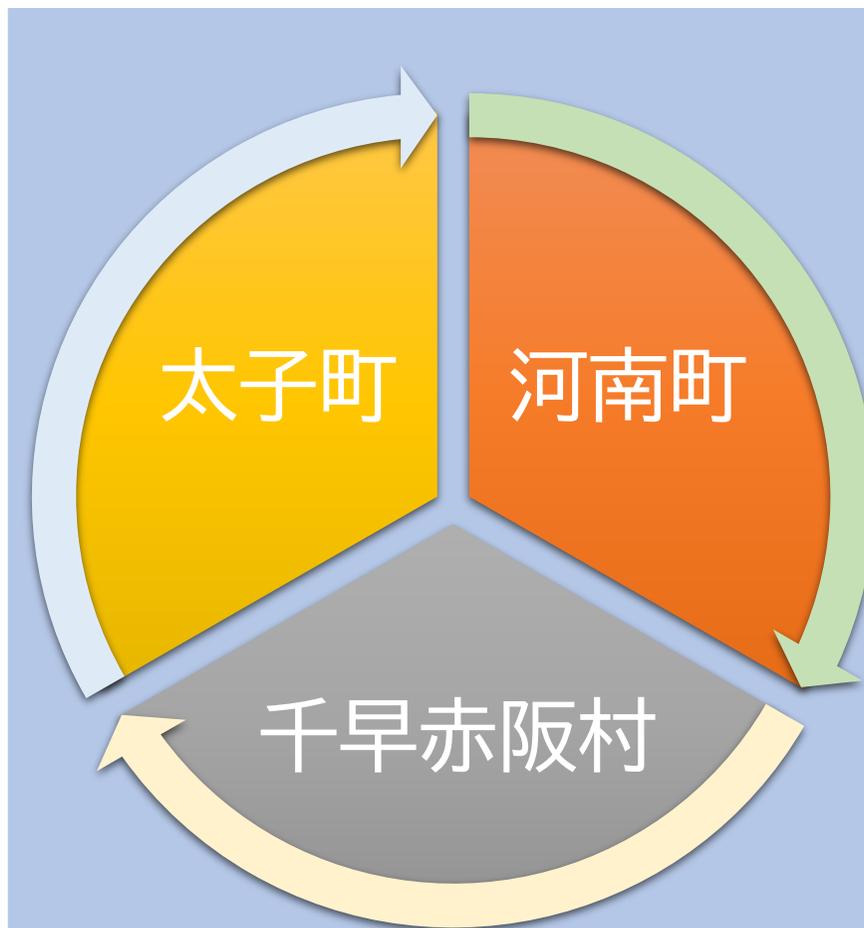
- 委託料(または負担金)

【実施時期】

- 未定

【実施場所】

- 当番団体域内



1年目:太子町
太子町・河南町
各5名程度
計10名程度

2年目:河南町
太子町・河南町
各5名程度
計10名程度

3年目:
千早赤阪村
太子町・河南町
各5名程度
千早赤阪村
5名程度
計15名程度

事務の共通化・共同化(業務の連携強化)

今後の進め方

■ チェーンソー及び刈払機の特別講習について

- 事務処理の負担及び予算的負担を軽減できることが確認できたことから、共同実施に向けて調整を進める
- 検討・確認事項は下記表のとおり

検討・確認事項	概要
開催方式	事業所管課の輪番制とするか、研修協議会による開催とするか
実習(実技)	実技の実施手法についてのすり合わせ
実施時期	いつ開催するか
開催場所・時間等の確保	共同開催にあたり、時間的・物理的な支障がないか
1回当たりの各団体の受講人数	各団体の受講者数、毎年5名の想定が妥当か（千早赤阪村は3年に1回）
事業者の確保	10～15人規模でも講習を開催してくれるのか（場合によっては小規模化も）
予算	各団体の研修に係る予算の状況・改めて予算要求が必要か



- 令和8年度からの共同実施を目指し、調整を進める

■ 業務の連携強化について

- 各団体において共同実施を行うことにより、事務ノウハウの維持・共有、事務負担の軽減に資する事業や研修等がないか、対象拡大に向け、引き続き検討する

まとめと令和8年度の方向性（事務の共通化・共同化）

令和7年度のまとめ

【入札参加のための事業者登録事務の共同実施】

- ・実施スケジュールについて検討し、令和9年度から順次共同化することで一致した
- ・共同化にあたって制度設計の検討を開始した
- ・共同化の際の費用負担額の算出方法について検討を開始した

【基幹系業務システムの標準化対応を契機とした事務共同処理の検討】

- ・事務フローの差異が小さい介護認定審査業務をモデルケースとして事務フロー統合に着手したが、担当課より「現時点ではシステムの共同化の時期が未定のため完全な統合を図ることは困難」との意見があったことから、事務フローの差異が大きい業務へ対象をシフトすることとした

【業務の連携強化】

- ・チェーンソー及び刈払機の特別講習に係る研修を共同実施することで事務処理の負担及び予算的負担を軽減できることが確認できた

令和8年度の方向性

【入札参加のための事業者登録事務の共同実施】

- ・国の動向を踏まえながら、引き続き制度設計の検討を進める
- ・共同化に向けた費用負担額の算出方法を引き続き検討する

【基幹系業務システムの標準化対応を契機とした事務共同処理の検討】

- ・2町1村の意向を確認しながら事務フロー統合を検討する業務を選定する
- ・システムの共同化については、府スマートシティ戦略部主導の取組の中で検討する

【業務の連携強化】

- ・研修の共同実施に向けて調整を進める
- ・各団体において共同実施を行うことにより、事務ノウハウの維持・共有、事務負担の軽減に資する事業や研修等がないか、対象拡大に向け、引き続き検討する

2-2. 広域連携部会の検討内容

01 専門人材の確保

02 公共施設の最適配置

03 事務の共通化・共同化

04 地域活性化

各チームの検討状況一覧

■ 広域連携部会（地域活性化チーム）

共同での取組内容

「移住・定住フェア2025」への共同出展



<取組概要>

「大阪の魅力を再発見!!移住・定住フェア2025」に共同でブース出展し、2町1村の魅力をPR（日時）令和7年8月14日（木）11時から17時（場所）ららぽーとEXPOCITY（吹田市）

<参加者へのアンケートについて>

参加者の居住地域や移住検討時に重視する点等についてアンケートを実施し、534名から回答を得た



イベント参加者数

約3,400人

家庭用廃食油のリサイクルによる循環型社会形成



<取組概要>

各団体の庁舎等に、家庭で廃棄されている廃食油の回収スポットを設置し、石油代替エネルギー（SAF等）に利用することで、CO2の削減を図る



廃食油回収量

642L（令和8年2月末時点）

南河内地域2町1村を巡るサイクリングイベント



<取組概要>

令和6年から引き続き、(株)DIIGと連携し、南河内フルーツロードをテーマにしたサイクリングイベントを実施



延べ参加者数

210名（令和6年、7年分）

まとめと令和8年度の方向性（地域活性化チーム）

令和7年度のまとめ

・地域活性化の取組は、単独よりも、広域的な視点で実施していくことで、より効果的・効率的な展開が可能となることを確認した。

・一方で、2町1村による連携だけでは、今後の地域魅力のPR機会の創出の可能性には限りがある。

令和8年度の方向性

・南河内地域全体を見据えた地域活性化に向け、関係人口の増加や移住促進に繋がるよう、南河内基礎自治機能充実強化協議会を中心に取組を深化・拡大させる。



3. まとめ

今後の方向性について

- ◆ 2町1村の現状や課題、本協議会の取組について令和6年度に引き続き広報紙で発信するとともに、2回にわたり住民アンケートを実施して、南河内地域の魅力・課題や期待する未来像等についての住民の意見を把握することができた。自由記述では、本協議会に対する要望に加え、合併を含む将来のあり方に関する様々な意見をいただいた。
- ◆ 採用試験の共同実施では、新たに二次試験(集団討論)についても共同実施したほか、民間サービスを活用した受験者へのアプローチ強化にも取り組んだ。専門職員の確保に向けては、府主催の技術職員合同説明会に共同出展してPRを実施した。昨年度に引き続き、採用予定者交流会を共同実施した。
- ◆ 給食センターの将来的な集約化などに向けては、給食調理委託契約の終期を2町1村で一致させるとともに、施設の維持管理費や大規模修繕費、調理設備の更新費等の比較や、食物アレルギー対応の比較、共同利用した場合の各学校までの配送時間のシミュレーションに取り組んだ。
- ◆ 事務の共通化・共同化では、入札参加のための事業者登録事務の共同実施に向けた制度設計や費用負担等についての検討、システム標準化を契機とした共同処理に向けた事務フローの差異の検証のほか、研修の共同実施にも取り組んだ。
- ◆ 地域活性化については、昨年度に引き続き府主催の移住・定住フェアに共同出展したほか、2町1村を巡るサイクリングイベントや家庭用廃食油のリサイクルによる循環型社会形成にも共同で取り組んだ。

◆ 今後の方向性

- ◆ 市町村の将来のあり方にかかる調査検討や南河内地域全体を見据えた地域活性化の取組など、より広域での検討が望ましい取組については、南河内基礎自治機能充実強化協議会を中心として実施する。
- ◆ 広報紙やSNSを活用した情報発信、住民アンケートなど2町1村の住民の理解促進等にかかる取組のほか、人材の確保、公共施設の最適配置、事務の共通化・共同化など、既に検討を開始している取組については、引き続き本協議会において取り組む。
- ◆ 両協議会を通じて、2町1村と南河内地域全体の将来のあり方に関するオープンな議論を引き続き行っていく。